

「義務教育学校」と「分離型小中一貫校」について

①小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員がめざす子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

②小中一貫校とは

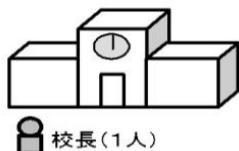
小中一貫教育を実現するためにつくられた学校のこと

③小中一貫教育の形態と特徴

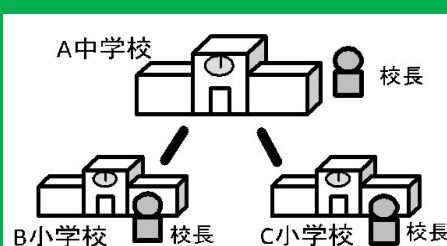
① 義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



② 分離型小中一貫校



組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態

⇒それぞれの学校
それぞれの校長・
教職員組織

※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を伊任

現在の金山小学校・金山中学校

	① 義務教育学校	② 小中一貫型小学校・中学校
特徴	新たな学校の仕組みで、小学校と中学校を1つの学校とした9年間の学校	各学校に校長がいる組織上別々の小学校(6年)・中学校(3年)が一貫した教育を行う学校
修業年限	9年(課程:前期6年+後期3年) 9年(課程:前期4年+中期3年+後期2年)	小学校6年、中学校3年
長所	<p>【児童・生徒】心の安定と学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間でリーダーを3回経験できる。 前期(4年生)・中期(7年生)・後期(9年生) ・異年齢の交流で豊かな人間性と社会性を育む ・前・中期段階から一部教科担任制の導入により、専門的な授業を受けることができる。 <p>【教職員】こんなことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の垣根をなくし、義務教育学校の教員として9年間を見通した教育活動を展開できる。 ・乗り入れによる教科指導が可能。 ※主に中学校教員が小学校課程へ ・教科教室の活用(5教科) ※8・9年生が主に使用し、教科意識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見越した教育内容での柔軟なカリキュラム編成ができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への進学に不安を覚える児童の減少が見込める。 ・中1ギャップの緩和・解消が見込める。 	
	<p>※「中1ギャップ」とは、中学校に進学したばかりの生徒が、環境・学習内容の変化に馴染めず、不登校やいじめ等の問題が増加する現象のこと</p>	